

訂 正

「天気」58巻10号の2011年度秋季大会プログラム中、「スペシャル・セッションの概要紹介」のうち、903ページ左段の「大気中の二酸化炭素観測手法の新たな展開とそのデータ利用」の趣旨説明文の末尾に過去の大会のスペシャル・セッションに関する説明文が誤って記載されていました。正しい趣旨説明文を掲載し、訂正させていただきます。スペシャル・セッション世話人及び読者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

講演企画委員会

大気中の二酸化炭素観測手法の新たな展開とそのデータ利用

日時：大会第3日（11月18日）13：30～17：00

場所：B会場

趣旨：産業革命以来の大気中二酸化炭素（CO₂）の増加は地球温暖化の主な要因である。地球温暖化の将来予測に重要な地域別のCO₂フラックスとその変化のメカニズムについての理解は依然として不十分である。そのため、温室効果ガス観測技術衛星GOSAT「いぶき」による地球規模のCO₂観測も行われるようになった。GOSATのCO₂データ検証のために、地上高分解能フーリエ変換分光計

(FTS) や航空機搭載非分散型赤外線分析計 (NDIR) による観測データが利用される一方、新しく差分吸収法ライダー (DIAL) や航空機搭載レーザー差分吸収分光計 (LAS)、CO₂ゾンデ、光スペクトラムアナライザー (OSA) など新たなCO₂センサーも開発されつつある。このセッションでは、地上・航空機・衛星からのCO₂の観測手法と観測誤差、観測データの解析方法やそれらのデータを利用した地域規模のCO₂フラックスを求める手法などに関する発表を募集します。

世話人：内野 修 (国立環境研究所)、長澤親生 (首都大東京)、川上修司 (宇宙航空研究開発機構)